

スマートテレビ時代における字幕等の在り方に関する検討会
CM字幕ワーキンググループ（第3回）議事要旨

1. 日時

平成26年4月8日（火）15時00分～16時40分

2. 場所

総務省11階 第3特別会議室

3. 出席者

(1) 構成員

音主査、寺島主査代理、木村構成員、後藤構成員代理（高橋構成員の代理出席）、澤田構成員、菅原構成員

(2) プレゼンテーション

高岡理事長（全日本難聴者・中途失聴者団体連合会）、久松事務局長（全日本ろうあ連盟）、松森果林氏（UDコンサルタント）

(3) オブザーバー

仲課長補佐（経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課）

(4) 総務省

南大臣官房審議官、奈良総務課長、長塩地上放送課長、徳光地域メディア室長

4. 議事要旨

(1) 事務局説明

事務局より、資料に基づき、第2回会合の議論に関連する事項について説明が行われた。

(2) プレゼンテーション

松森氏から「テレビCMにも字幕を」について、高岡理事長から「CM字幕の普及のための提案」について、久松事務局長から「みんなにやさしい社会を」について、それぞれプレゼンテーションが行われた。

(3) 意見交換（構成員等の主な発言は以下のとおり）

○寺島主査代理

- ・高岡理事長からお話しのあった字幕を画面の外に表示する方法により、CMの字幕を画面外に表示することについて、利用者、制作者の立場からどうか。

○高岡理事長

- ・見る立場からは、アウトスクリーンは映像やテロップと字幕が重ならず見やすい。

○松森氏

- ・すごく見やすいと思う。字幕が普及しなかった理由の1つとして、字幕が顔の上に被さって見にくいという声が多くあった。見る立場としても違和感があった。アウトスクリーンで画面の外に字幕を表示してもらえると、それが解消でき、誰でもストレスなく見られると思う。シャープのアクオスだけで使えると思うが、どうしてほかのメーカーでは使えないのか気になっていた。

○久松事務局長

- ・耳が聞こえないみなさんからは、顔の上に字幕があるのは違和感が強い、顔に字幕が被さらないような配慮がほしいという声が多かった。

○菅原構成員

- ・画面の外に字幕を表示できる機器が普及すると、放送する側やコマーシャルを作る側にとってもCM字幕に取り組みやすくなるのではないか。
- ・1社枠のトライアルについては本放送と同じレベルで取り組んでいると言える状況であり、さらに枠を増やせないか検討している。
- ・放送局の設備は各社各様ではあるものの、順次字幕付きCMが放送できる設備に変えていくよう、民放連の代表者が集う場においても要請している。かなり費用がかかり、とくにローカル局の経営状況は厳しい中ではあるが設備投資をしているという意思は確認できている。

○澤田構成員

- ・CMの前後何秒間には字幕を入れないということをガイドラインで決めていても、字幕が次のCMに被るという事故が起こり得るものなのか。

○菅原構成員

- ・トライアルで知見を積み重ねた結果、CM素材がガイドラインにそって制作されており、放送設備が字幕に対応していれば、基本的には事故は起きない状況になっている。

○松森氏

- ・字幕にCMを付ける難しさや、現在行っているトライアルについて、主体者側（総務省や放送局、広告主等）から情報発信することが重要。

○後藤構成員代理

- ・耳の不自由な方々のお役に立つということであれば、もっと字幕付きCMについて告知が必要というのは、おっしゃるとおりだと受け止めた。今後、協会で会員に伝えたい。
- ・検討会の影響もあるのか、CMに字幕を付けたいという企業が増えてきている。民放連、広告業協会とともに字幕CMの出しやすい環境を早急に整備していく必要がある。

○澤田構成員

- ・難聴者が人口の15%に相当するという話があり大きな数値だがあまり知られていないのではないかと。これだけの需要、必要とする人がいるということをもっと出していくと、字幕の必要性をもっとアピールできるのではないかと。
- ・ウェブの世界では情報アクセシビリティの確保が徹底されてきており、それがJISやISOの規格になったりしている。同様に放送の分野でもJISやISOなどの規格を含めて整備していく必要があるのではないかと。

○松森氏

- ・今日初めて障害当事者の話を聞いたという方もあると思うが率直な感想を。

○木村構成員

- ・技術的な問題等もあるが、単に放送を流すだけではなく、聞こえないものをどういうふうに伝えるかということまで考える必要があり、クリエイターや字幕制作の作業をする人にも関わってくる問題だと感じた。

○久松事務局長

- ・昔、日本のメーカーはアメリカでテレビを売るためにアメリカの基準に適合する技術開発の努力をし、アメリカ人は日本のメーカーの努力で字幕を楽しんでいた。考え方を根本的に変え、逆に、日本のテレビの全コンテンツに字幕を付け、外国から来る人に、ああ日本はすごいと言われてみたい。その辺を念頭に審議を続けていただきたい。

○高岡理事長

- ・検討会終了後も引き続き、総務省は、経産省、内閣府と連携して課題解決に向け、取り組んでほしい。
- ・2020年のオリンピックの前に新しい世代のテレビの規格をつくる際は、障害者権

利条約が発効しているのだから、障害者を入れるべき。

○松森氏

- ・主体者から情報を発信することについて検討していただけるか。

○木村構成員

- ・民放連では字幕付きCMの検討状況をホームページに適宜掲載し、関係各者で情報を共有するようにしている。字幕付きCMが増えることが何よりのメッセージだと思うので、先ほど菅原構成員から申し上げたように、3月20日の会員協議会という全社の社長クラスが集まる会合において、検討会の検討内容を報告するとともに営業委員長から今後の取組の強化をお願いしている。

○後藤構成員代理

- ・アドバイザーズ協会においても、理事会、電波委員会を始め関係する委員会でこのワーキングの内容を逐次報告している。少しずつ字幕を入れようという動きが出てきているので、協会としてもそれを後押しするような活動を今後も続けていきたい。

○寺島主査代理

- ・事務局提出資料（課題と対応の方向性）の周知等に係る課題の対応の方向性については、もう少し具体化できるとよいと感じた。

○音主査

- ・4月下旬から5月中旬に予定の第2回親会で当ワーキングの中間報告をすることになっており、課題と対応の方向性の資料については、事務局で、本日の議論を加味する形で具体化、明確化を図るようお願いする。
- ・資料の整理、親会への報告については私にご一任いただけますでしょうか。

（構成員から異議なしとの発言あり）